

ふれあい西本郷小

令和4年度

2月号

横浜市立西本郷小学校 学校だより 令和5年1月27日(金)
一人ひとりがかがやき、みとめ合い、つたえ合い、たかめ合う西本郷小の子
キャッチフレーズ:あいさついっぱい みんながえがお 西本小

感謝の心を育む

副校長 幸保 陽子

先日、朝会で学校の教育活動を日頃から支えてくださっているボランティアの方の紹介をしました。

現在、本校では5つのボランティア団体と2つのサークル、そして授業や校外学習等に参加して下さる教育ボランティアがあります。今年度は延べ130人の方にご協力いただきました。「学校の花壇に花がきれいに咲いていると、きっと子どもたちが喜ぶと思う。」「読み聞かせの本を選ぶのに、頭を悩ませるけれど、児童が面白かったと言ってくれるとやりがいを感じる。」など、ボランティアの方の声とともに紹介しました。

朝会で紹介したことで、児童は、「このような思いで活動してくださっていたのか。」「こんなにたくさんの方が、支えてくださっていたのか。」と、とても驚いているようでした。同時に、子どもたちには、ボランティアの方の存在が、より身近になったようでした。そして、このように学校をよりよい環境にしたいと思って活動してくださっていることが、当たり前のことではなく、とてもありがたいことなのだという点にも気付いたようでした。

カリフォルニア大学デイヴィス校のロバート・エドモンド教授は、著書の中に「感謝の気持ちをもつと、人はやる気に満ち、落ち込んだ心が癒え、希望がわいてくる。」と書いています。調査の結果によると、日頃から感謝を心掛けている子どもは、学校や日常生活に対する満足度が増すのだそうです。ポジティブな感情で物事に取り組むことができるのだそうです。地域の方や保護者の方が、感謝の気持ちを育める環境をつくってくださっていることに改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

学校でも、校外学習や行事ごとに異学年を励まし合う交流があったり、なかよし班活動があったりと、年間を通して充実させてきました。2月は今年度のまとめの時期になります。この時期だからこそ、今までの活動を振り返り、感謝の心をさらに育てていきたいと思っています。子どもたちは、今、ボランティアの方に「感謝する会」や、卒業する6年生に向けて「お別れ会」などを計画しています。また、6年生は、家庭科の学習で、地域の方に感謝の思いを伝える単元があり、小物の作成にも取りかかっているようです。学校には、感謝を伝える様々な場面があります。そのような機会を捉えて、改めて自分の行動を振り返って考えたり、多くの方たちに支えられていることに気付いたりしてほしいと思っています。そして、当たり前だと思っていることが当たり前ではなく、私たちは、たくさんの人たちの温かい思いや協力によって支えられていることを実感してほしいと思っています。さらには、人への感謝の気持ちが、次への原動力となり、「今の自分には何ができるか。」と、人のためにできることを考えてほしいと願っています。私たち大人も、家庭や社会など様々な場面で感謝の気持ちを積極的に伝えていくことで、子どものたちの手本となっていきたいものです。